

》株式会社 秋田農販

CO₂排出をゼロにするアンモニア燃料の可能性を模索 持続できる農業を実現したい

秋田の特徴を
活かせる技術を使用し
地域農業を活性化



代表取締役 高橋 浩行

株式会社 秋田農販
〒019-1901
大仙市南外字悪戸野147
TEL:0187-74-3037
FAX:0187-74-3057
<https://akitanohan.com/>



HP

豪雪地帯の秋田でも周年ハウス栽培を

大仙市南外で総合農業コンサルタント事業を行う株式会社秋田農販。秋田は豪雪地帯のため冬場は農閑期となり、作物を作ることができないのが一般的だ。この問題の解決方法を模索するなかで、同社が出会ったのが福岡の企業が開発・販売していた「もみガラボイラー」だった。米農家であれば廃棄が必要だった「もみガラ」を燃料とすることで、例えばトマトなどの夏野菜なら50%、葉物野菜であれば100%の灯油使用量を削減して冬場のハウス栽培が可能となる。燃料として使い終わったあとにできる燻炭は土壌改良材として活用でき、カーボンニュートラルでコストも削減できる。このシステムをまずは自社で導入して実績を作り、15年ほど前から販売を実施。現在、全国で59台が導入されている。

令和3年、先進的にカーボンニュートラルの取組を実施していた同社に転換期が訪れた。環境省が行う「地域共創・セクター横断型 カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に参加することになったのである。



九州に比べ稲作が盛んな東北エリアはもみガラが豊富にあるため、需要も高いと考え、開発した企業から特許権を譲り受けた。



株式会社トヨタエナジーソリューションズが開発したアンモニアを燃料としたマイクロガスタービン(MGT)。



アンモニア製造を行っているケニアで視察を行った高橋社長(写真左)、プロ人材活用で採用したチームリーダーの塩谷さん(同右)。

安定した農業と脱炭素社会の実現のために

燃やしてもCO₂が排出されないアンモニア燃料によるマイクロガスタービンのコジェネレーションシステム*を、実際に農業分野で活用できるのか。同社はその実証フィールドの提供と全体のシステム開発に関わることとなった。具体的には安全性の検証や周年栽培の実施が主なものだ。今後はアンモニアをどこで、どう作り、どのように運ぶのか。高橋さんは、実現に向けた次のフェーズに取り組む必要性を感じている。

この事業に携わることで多忙を極めた高橋さんは、秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点へ相談することに。環境エネルギー戦略や財務戦略、IT・DX分野、生産商品の販路開拓といった優秀な4名の専門人材を採用することができ、現在はチームを作って事業を推し進めている。同じ目線で取り組み、積極的に提案してくれる心強い仲間だと語る高橋さん。農業を「夢のある職業」に変えるため、挑戦は続く。

*発電と同時に発生した排熱を利用して、給湯・空調などの熱需要をまかなうエネルギーの効率的運用システムのことをいう。